
贈る言葉

青

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

贈る言葉

【Zコード】

N1140A

【作者名】

青

【あらすじ】

貴方に会えて良かった。初めて、誰かの幸せを祈りたいと思つた。ねえ、大好きだよ。会つてくれてありがとう。好きにならせてくれてありがとう。胸いっぱいに、貴方への感謝が溢れてる。

(前書き)

少し連載を休憩して書きました。
野球が出てきますが、連載の登場人物とは全く関係ありません。
実際、私が経験した物語です。
こんな風に人を愛せたことを誇りに思つ。

大好きな人に、大好きだと伝えなかつたこと。
全く後悔してないと言え、嘘になるけれど、これで良かつたのだと
笑うことはできる。

先輩。

凄く頑張つてゐる人だつた。

野球部のエースだつた。

全国から注目を浴びる人だつた。

私には、誰よりも輝いて見えた。

1番を背負つた背中は頼もしくて、笑顔でマウンドに立つ姿が大好きだつた。

憧れでした。最初は。

野球が好きで、選んだ高校だつた。
見に行つた大会で、気付いた。

一人才ーラをまとっている人に。

ピンチを迎える、マウンドに集まる仲間たちに貴方は何を言つたのかな。

次の瞬間、ナインに笑顔が溢れた。緊迫した空気が嘘の様に軽くなつた。

チームの雰囲気がかわつた。

そこから三振の山。一点も許さなかつた。

逆転サヨナラ大勝利。

そこには本物の『エース』がいた。

本当に嬉しそうに笑う。

本当に楽しそうにプレーする。

そんな姿に恋をした。

先輩の投球は、才能じやない。努力から生まれたものだつた。

人一倍野球が好きで、誰よりも努力を重ねる人だつた。

辛いときこそ笑い、プレッシャーをも力に変える。仲間に勇気を与えるエース。

大好きだつた。

私の贈つたエールに笑顔で応えてくれたこと。

ありがとう、と眩しいほどの笑顔で言つてくれたこと。

涙が出るほど嬉しかつた。

先輩の隣にはいつも、先輩を支え続けてきた彼女の姿があつた。私が入る隙間なんてないことは、十分すぎるほど分かつていた。だから、泣いた。何度も何度も。忘れようとして失敗して。

見ないふりして。気付かないふりして。

どうしてかな。

どうして私じや駄目なんだろつ。

この想い。誰にも負けない自信があるのに。ある日、分かつた。

私じや駄目なんじや、なくて…

先輩があの人じやなきや駄目なんだって。
あの人以外じゃ、駄目なんだって。

やつと分かつた。

告わないと、決めた。

私が伝えたいのはそんなことじやないから。

青い空に見守られた、卒業式の日。

貴方に最後の言葉を贈りました。

貴方の胸には届きましたか？

「卒業おめでとうございます。いっぱい、いっぱいありがとうございました。

いました。

これからも頑張つて下さい。ずっとずっと応援しています。

先輩の活躍を、心から祈っています！」

貴方はあの笑顔で、ありがとうと応えてくれた。

だから私も。笑つて見送ったよ。

貴方の姿が見えなくなるまで、泣かなかつたよ。
手元には、笑つてピースしてくれた一枚の写真。

ねえ、先輩。

大好きだつたよ。

苦しいほど、大好きだつた。

だから、応援するつて決めたんだ。

私が貴方のためにできること。

必死で考えたけど、応援することだけだつたから。

精一杯のエールを、贈り続けます。

だから頑張つて、先輩。

どうか、忘れないで。貴方のことを応援してゐる人がいるよ。

私が貴方に望むのは、好きになつて欲しいでも、彼女になりたいで
もないよ。

貴方の活躍と貴方の幸せ。

本当だよ？

大好きだから。幸せを祈る。

先輩が、生きていてくれること。

笑つてくれること。

頑張り続けてくれること。

活躍してくれること。

誰よりも幸せになつてくれること。

それが私の望み。それが私の願い。

だから、幸せになつてね。

私と出会つてくれてありがとう。

こんなに好きにならせてくれてありがとう。

貴方の存在があつたから、私は強くなれた。

貴方がいたあの日々は、私にとつてかけがえのないものになりました。

たくさん泣いたけれど。

貴方を好きになつたこと、後悔したことは一度もないよ。

貴方に会えて良かつた。

貴方を好きになれて良かつた。

本当に、ありがとう先輩。

貴方と出会えた私は、世界中の誰よりも幸せだと思う。

野球漬けだった三年間。

かけがえのない仲間と出会った。

壊れそうになる度に、声枯れるまで怒鳴り合つた。

苦しみも喜びも分かち合い、笑うときはいつも一緒にいた。

倒れそうなときには肩を貸してくれ、泣きたいときは何も言わず側にいてくれた。

努力することの意味と、仲間がいることの大切さを学んだ。

汗のしみ込んだグランドに、泥だらけのユニフォーム。

夢を託した白いボール。

憧れの場所に立ち、自分を育ててくれた全てに感謝した。

一度と戻らないけれど、いつまでも色褪せることなく輝き続ける。

青春の日々。

貴方の素晴らしい思い出の、ほんの一瞬でも、私はいますか？
もし貴方が、ほんの少しでも頑張りつけて思つてくれたら。
私の想いは報われる。

同じ空の下。

貴方がどこかで頑張り続けている。

大好きなあの笑顔で、笑ってる。

そう思っだけで、強くなれます。

頑張ります。

ありがとう先輩。

永遠の1番。

きっとずっと忘れない。

頑張れ。

愛する貴方に、贈る言葉。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1140a/>

贈る言葉

2010年12月13日18時05分発行